

第3回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議録

- 日 時 令和7年2月6日(木) 午後2時～午後4時13分
- 会 場 鶴岡市役所 大会議室
- 出席委員
佐藤竜太／梅木広士／渡辺真美／富樫繁朋／本間久士／長谷川玲子／清野康子／今野喜行／丹治亜香音／阿部真一
- 欠席委員 櫻井孝輔／大滝忠／佐藤正和／田中英嗣／本間妃織
- アドバイザー 仲綾子(オンライン)
- 市側出席職員
鶴岡市長 皆川治／企画部長 上野修／健康福祉部長 佐藤繁義／建設部長 坂井正則／政策企画課若者・子育て世代応援推進室長 本間育子／子育て推進課長 成沢真紀／子育て推進課主幹 五十嵐雄／都市計画課長 三浦一夫／子育て推進課課長補佐 五十嵐広樹／都市計画課課長補佐 本間仁／子育て推進課子育て推進専門員 上野和義／同小林洋之／同課主事 高木康輔／政策企画課主事 菅原拓磨
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 6人
- 協議・報告事項等
(1)こどもの遊び場整備方針について(資料1・2)
(2)公園遊具の整備について(資料3)

1 開 会 事務局(子育て推進課主幹)

2 挨拶 (鶴岡市長)

3 協議〈議長：委員長〉

- (1)こどもの遊び場整備方針について
- (2)公園遊具の整備について

議長

(1)こどもの遊び場整備方針と(2)公園遊具の整備について、一括して事務局の説明をお願いします。

事務局(健康福祉部長)

こどもの遊び場整備方針について、資料1・資料2により説明。

事務局(建設部長)

公園遊具の整備について、資料3により説明。

議長

資料1のうち整備方針策定の目的とソライの料金を含む遊び場整備の方針、遊びを推進する取組、公園遊具の整備と3つに区切って進めたい。

まず、策定の目的と遊び場整備の方針、ソライの料金について意見をいただきたい。

委員

保護者の間には、ソライの利用料が安くなることで、有料でゆっくり遊びたかった人が遊びにくくなるのではないかと懸念する意見もある。料金が安くなるのは良いことだと思うが、今後反対意見が増えて来ることも予想されるのではないか。

事務局（健康福祉部長）

ソライは安全面などから一度に利用できる人数が制限されている。無料になって利用者が増えることに対して、安全のための人員確保や工夫をしてもらうようソライに伝えていく。

委員

この後協定を結ぶことになると思うが、保護者に周知できていない状態では色々な意見が出て来ると思うので、保護者に説明してからの協定のほうがいいと考える。

議長

安全性をどう担保するかは意見を踏まえてしっかり考えないといけないが、事務局としてどう考えるか。

事務局（健康福祉部長）

ソライの利用料については、アンケートや様々な場面で軽減を図ってほしいという声があることを受けて検討してきた。利用者には様々な意見があると思うが、すべてに応えることは限界があり、多くの方が望まれている声を集約しながら、冬場や天気が悪い時に大型の施設で遊べる環境を整えていきたい。

委員

協定を結んでから利用料も詰めていくという認識だった。この段階で料金は決まっているということか。

議長

前回の協議会で料金の話をして、その後内部で調整し、この場で考え方を示している。前回、無料を求める声が多い中で本当に人が来てくれるのか、という発言があったが、いかが

か。

委員

周りの話を聞いていると無料で遊べる場所を求める声が多いので、無料はありがたい。常に無料で、どの家庭の子も平等に行くことができるということが良いと思う。

以前こどもをソライに連れて行ったが、有料ということで、騒ぎ立てる小さな子ではなく、じっくりものづくりをしたい子が集まる場所と感じた。無料にする際は、じっくり取り組みたいこども向けに静かにするスペースを設けるなどすれば、色々な声に応えることができるのではないか。

議長

市民ニーズに応えるため、屋内遊び場を新たに作るか、既存施設を利用するかという話をした時に、既存の施設を利用するという意見が多く、その中で具体的な施設としてソライは無料という市民ニーズが多かった。運用で危険のないようにするということは考えていなくてはならない。そういった課題にはしっかり対応していくという交渉をしたい。

皆川市長

資料2で示している利用料の額は、市の内部で現在検討しているもの。意見は多様であり誰からも賛成してもらうことは難しい。予算案の提案は市長の責任で行うもので、委員の責任を問うものではないことをご理解いただきたい。その上で、安全面など必要な対策はとるようソライに伝える。

協定の連携事項は、年齢や障害の有無に関わらず遊べる屋内遊び場の環境に関することと、利用料の負担軽減に関する事で、多くの市民が負担軽減を望んでいることを認識し、意見を伺ってきた。協定を結んだ上で、具体的な提案は市長の責任でなされるということを会員の皆さんに説明していただきたい。

委員

協定を結ぶことで会員の意見を吸い上げていただきたい。

委員

ソライの利用料軽減の対象は鶴岡市在住のこどもでいいか。

付添いは保護者でなければならないか。

高校生についても保護者は一人無料ということか。

事務局（健康福祉部長）

利用料は市民の負担軽減のために行うので、鶴岡市の方が対象となる。

付添いの保護者は、付き添って一緒に遊ぶ大人の方という意味である。

ソライの利用は、小学生までは大人の付添いが必要だが、高校生は保護者の付添いは不要。「小学生までの付添いの保護者」というような表現に修正する。

委員

あくまでも利用するこどもが鶴岡市在住ということか。祖父母が鶴岡市民で帰省した孫を連れて行く場合はどうか。細かいことだが、明確にして回答できるようにしておかないと混乱を来すと思う。

事務局（健康福祉部長）

現時点では、利用するお子さんも付添いの方も市内在住と考えている。

委員

学童や子供会、放課後子ども教室など団体で行く場合は該当になるか。

事務局（健康福祉部長）

今回の提案は、親子利用を考えているため団体利用は想定していない。

議長

細かい部分ははまだ詰まっていないので、8月までの準備期間で十分検討したい。

委員

ソライの料金無料はありがたいが、無料になると利用者が増えてトラブルも心配される。小学生は年齢の幅があって遊び方も違うので、低学年や高学年など年齢層で時間帯を分けて利用させるなど使い方を考えてもいいのではないか。

事務局（健康福祉部長）

ご指摘のことは、ソライに限らず、他市町村の大型の遊び場でも課題になっている施設がある。協定を結び、より良い遊び場を提供していくためにはどうすればいいか、意見をいただき、サービスを提供する際に検討して進めていくものと考えている。ソライにもきちんと伝え、どう対応していくかを考えていきたい。

議長

遊び場整備方針の目的や方針についてはどうか。

委員

対象となりうる施設はこどもの遊びに適している施設が中心のようだが、基本的な考え方に「鶴岡の地域資源を活かした遊び場の整備」とあるので、地域資源の幅をもう少し広げ

て、市で保有している施設、例えば出羽庄内国際村の一角に海外の遊びが体験できるスペースを設けるなど、行政組織のセクションを越えてこども達の遊べるスペースができればいいと思う。

また、これから市の建物で新たに整備する予定があれば、建物の一角にこどもの遊び場としてのスペースを設けることを視野に入れて計画をして欲しい。

議長

委員からは前回、こども達をどこで誰とどうやって遊ばせるのか、今のこども達は何をしたら喜ぶのかということを整理して欲しいという意見があったが、まさに今のお話と一緒に思う。その点はこれまでの議論を通してぜひ取り組んでいきたい。

事務局（企画部長）

出羽庄内国際村を来年度改修する予定で、アマゾン資料館のあったところを海外の方が集える場所にしようと考えている。その中に、こどもが交流したり遊んだりできるスペースも予定しているので、ご意見を参考にさせていただきたい。

委員

3 ページの④で、年少や年長のこどもと区切らないほうがいい。

整備の方向性はプレーパークに寄り過ぎている感じがする。全部の施設がプレーパークになる必要はなく、ソライのような有料の施設があることもいいし、プレーパークがあったり、サッカーができる公園があったり、遊具のある公園や無い公園など、鶴岡の自然や地域資源、既存施設などを活かしながら、色々な遊び場があることがいいと思う。

事務局（健康福祉部長）

年齢の部分は、誰もが一緒に遊べるということが整備方針のテーマなので、表現をわかりやすく変える。

整備の方向性は、様々な場所を様々な活用していくようにするということを提案し、明示することでイメージしやすくしているので、書き方を工夫したい。

議長

一様にプレーパークの方向に持っていくという考え方ではないということだ。

委員

プレーリーダーの養成のあり方はどう考えているか。プレーリーダーは派遣なのか、ボランティアなのか、お金が発生するのか。

議長

大きな3つの括りのうち、1番目をいったん閉じて、遊びを推進する取組に入る。プレーリーダーの考え方について事務局の考えは。

事務局（健康福祉部長）

前回の資料はハード面が中心だったが、遊びを指導する人材や整備の進め方についてご意見があったことを受け、遊びを推進する取組を加えた。

プレーリーダーの全体的な方向性はこれからの検討になるが、新たに育てるだけでなく、遊びを伝える人は地域住民やボランティア、達人など様々な方がおり、そういった方と一緒に進めたり地域でも養成したりできると考えている。

委員

県内では唯一、東根のあそびあランドにプレーリーダーがいる。全国にもプレーリーダーの組織やプレーパークの取り組みがあると思うので、仲先生に教えていただきたい。

仲アドバイザー

プレーパークとプレーリーダーの発祥はデンマーク。日本で最初に取り組んだのは世田谷で、有償のプレーリーダーがいるが、有償のプレーリーダーは全国的にも珍しいと思う。冒険遊び場づくり協会という組織でプレーリーダーの養成講座をやっている。お金がかかるのですぐには難しいと思うが、将来の方向性として方針に書いたことは意義がある。

また、前回の会議で、プレーパークができれば自分でやりたいという委員が何人かいて、このような人材がいるのはすごいことと思う。プレーリーダー育成の前に、すでに活動している方が活躍できる場を設け、そこから育ててもらおうという方法もある。

皆川市長

以前東京に住んでいた時に、世田谷のプレーパークによく行っていた。公園の一角が少し違う空間になっていて、若いプレーリーダーがこども達に様々な体験をさせてくれた。鶴岡でプレーリーダーを育てる仕組みをどうするかということを考えていきたい。

プレーリーダーに寄りすぎではないかという意見については、担当の意気込みの現れで、決してこれだけやろうということではない。委員の指摘と合わせて、市が施設を整備する際にこどもの居場所を作っていくという視点を全庁的に展開していくべきと思う。

前回の協議会で、大きいものを作って一点集中型にするより点在しているからこそ面白いという意見もあった。既存のものをうまく利用したり、新たに整備する際に取り入れたりしていく。

議長

前回、遊び場を担う大人の人材育成にも配慮してほしいという発言があったが、改めて考

えをお聞かせいただきたい。

委員

『ニールリーダー』という自然体験の資格指導者の養成を何年も前からやっていて、100人くらい資格を持っている方がいるが、活動している人は少ない。もう少し活用出来たら資格を取った方達も生き生きと活動できていると思う。

キッズドームソライの利用料軽減は単年度の話か。

皆川市長

単年度で終わるということではなく、継続して取り組める提案ができるよう準備をしている。

委員

そうであるならば、ソライに限らず体験活動を有料でやっているところも含めると、保護者の選択肢が広がるのではないか。例えば、イカの一夜干し作り体験を3,500円でやっているが、鶴岡の人たちはやってみたいと思っても、お金がかかるのでなかなか来ない。こうした体験に市が費用負担すれば、鶴岡の文化を知る機会になり、郷土愛にも目覚めると思う。

来年度はまずソライの利用料軽減をやってみて、次年度以降、こどもの体験活動をやっている事業者に手挙げさせて補助をすれば、サービスの質が向上し、子育ても良いものになっていくと思う。

また、利用料軽減は上限を設定したほうがいい。

皆川市長

ソライの利用料軽減にあたっては、単に貸館的に使ってもらうのではなく、こどもの発達にどのようなメリットを生むのかということを担当部署で整理するよう話した。どのようなコンテンツを開発していくかや、団体の扱いをどうするかなどはこれからの検討になるが、こどもの成長に効果が発揮できるように整理していきたい。

イカの一夜干し体験の話があったが、地域のコミュニティビジネスでやるのか、郷土愛醸成の事業としてやるのか、漁業振興の一環でやるのかなど色々な観点があり、政策の寄与度が大きいカテゴリーに位置付けて事業化していくことになるので、内部で考えていきたい。

議長

委員の発言は、今ある組織の底上げとともに、その結果としてこどもに有益な体験をさせるという観点だと思う。

委員

ソライの利用料に市が補助することは、市が子育てしやすい環境を作ってくれることで、

子育てにとって希望の光だと思う。ソライに対して費用対効果を高めるだけでなく、市として子育てに寄り添う気持ちの片鱗を感じた。

委員

整備方針を文言にすると堅い感じになるのは仕方ないが、総合計画のキャッチフレーズのようにサブタイトルがあると柔らかい感じになるのではないか。

2 ページの策定の目的の「公園の遊具や」の後には「更新」や「点検」という言葉がつくのでは。

Ⅱ遊び場整備の方針の冒頭、「遊びは」が主語であるのに対し、述語が上手くつながっていない。「必要不可欠」という言葉はとても強い印象を受けるので、「大事な」「大切な」という程度でもいいのでは。

基本的な考え方1の③「遊びの価値を伝え、こどもを中心とした」とあるが、どちらかというと「こどもの興味関心を引き出し、こどもと寄り添う」という表現が近いと思う。

④「誰もが一緒になって」の「なって」は不要。

基本的な考え方3の②「育てていく」ということは環境を作っていくことと思うが、別の表現のほうがいいのではないか。

皆川市長

昨日開催された図書館懇話会の中でも、基本理念について短い文章で図書館が目指すことを表現するためにたくさんの意見が出された。「鶴岡市こどもの遊び場整備方針」という文言でなくても構わないので、皆さんから意見を出していただきたい。

内容は大人がこどもを育てていくというトーンで書かれているが、こどもの主体性を生かすということとの整合性をとりながら進めていく。

事務局（健康福祉部長）

委員の意見を伺いながら整理し、パブリックコメントにかけて成案を決めていく流れになるので、事務局でまとめていく。

議長

キャッチコピー・サブタイトルはどうするか。

事務局（健康福祉部長）

委員の皆さんにも伺いながら考えていく。自分としては、こどもを中心にしていくという意味で、こどもまんなかの「まんなか」ということばを使いたいと思うが。

皆川市長

「遊びのまんなか宣言」などという形で、皆さんも考えてほしい。

委員

私は簡単に「遊びに本気」と思った。市も本気だし、こども達も一生懸命に遊ぶという意味で短く表現した。

皆川市長

図書館懇話会では小学校長経験者が、こどもにどういう視点で伝わるかということをおられたので、こども達に伝わるような形にしていかなければならない。

議長

この時間ではまとめきれないと思う。「遊びに本気」はこどもに伝わる文言だと思うので、これを基に皆さんから提案を願いたい。

委員

方針には「地域、民間団体・企業、行政の連携促進」とあり、企業との連携は積極的に進めて欲しいと思うが、企業に何を求めているか。

ソライについて、文化会館のようにネーミングライツは考えられないか。

事務局（健康福祉部長）

ソライのほか、様々な企業からこどものための寄附や協力の申し出があり、相手方の希望を伺いながら進めていきたい。

ソライは市の施設ではないのでネーミングライツは考えていないが、別の企業等が寄附をして名称を変えるなど、工夫の仕方はあると思う。

皆川市長

ネーミングについて対価をいただくほかにも、色々なコンテンツを作って別の民間企業に支援してもらうなどの取組も考えられる。そのような観点で民間企業・団体とともに遊び場整備を進めていくという視点は重要と思う。

議長

続いて、公園遊具の整備についてご意見をいただきたい。

委員

資料3の2ページに「整備箇所の決定」とあるのは「評価」ではないのか。評価をしてこの公園を整備する、と決定していくものと思う。

事務局（建設部長）

ご指摘のとおり、評価を行って決定という順番になる。

委員

どのような公園がいいか分からないまま進んでも無駄足になる可能性もあるので、実証実験を挟むといいのではないか。例えば、禁止看板が全くなく、こども達が自発的に遊べる仕掛けがあり、プレーリーダーもいる公園にして、その前後の変化を踏まえて必要な整備をしていけば、市民にぴったり合った公園が出来上がるのではないか。

仲アドバイザー

実証実験は大事だが、短期間で決めるのではなく長いスパンが必要と考える。この協議会とは別の枠組みで、5年・10年かけて検討するほうがいいのではないか。

事務局（建設部長）

今まで市が管理する公園の遊具は地元の町内会の意見や予算の範囲で決めることが多かった。それぞれの公園の特徴や利用者の選択肢の幅を広げるという視点も大事というご意見もあり、今後の公園のあり方を一緒に考えていきたい。

市長

市の事業の取組は政策評価の中でしっかり評価していく。

これまで遊び場や公園の整備についてはきちんと議論をしてこなかった。大きな視点で考えればまちの健康度合いであり、来年度まちづくりのマスタープランを見直す中で、遊び場をいいものにし、まちの健康度を高めていくよう進めていきたい。

委員

こどもまんなか社会において公園は一つの象徴で、公園整備を市が進めていく方向を示すのは分かりやすいと思う。

委員

危険な遊具は撤去していくことになると思うが、すべての公園に遊具を設置する必要があるとは思わない。こども達が利用するだけでなく、散歩の途中で休める東屋やベンチのほか、水場やきれいなトイレを整備したりと、公園にある遊具を更新しなければならないという概念を捨てて考えていかなければならないと思う。

事務局（建設部長）

今後、遊具の健全度調査や定期点検を行いながら整備の優先順位を決めていく中で、利用状況や必要性について地域住民の声を聞くなどしながら進めていきたい。

議長

協議を閉じ、委員からのご意見などを踏まえて仲先生と市長からコメントをお願いする。

仲アドバイザー

ソライの利用料軽減はかなりインパクトのある提案であり、様々な意見が出ると思うが、その時に、大事にしている方針をここで明確に示していると感じた。細かな点については丁寧に議論していく必要がある。

整備方針は前回の議論を丁寧にまとめて文章として示された。サブタイトルとして「遊びに本気」という提案をされ、このように宣言してくれる市に生まれたこどもは幸せだと感じた。皆さんから手にとってもらえるようキャッチーなフレーズを整備方針に付けるという意見がこの協議会で出されたことは評価されるべきと思う。

公園の遊具更新状況図を見ると、たくさんの公園が市内全域に分散配置されていることがわかる。既存の公園を一つひとつ大事にしていくという姿勢は、市にふさわしい遊び環境の作り方だと思う。新しい大きな屋内遊戯施設を一つ作ってオーケーということではなく、大事な資源を活かしていくという方針は鶴岡らしい。

多様な遊び場があるということは大事で、ベンチがあったり東屋があったり、鶴岡の自然の中で育まれているこども達は、良い環境の中で育っていくのだろうと感じた。

ソライはツクルバに階段で降りていくため、利用者が来るたびにスロープを設置することだった。恒久的にスロープを設置する動きがあると聞いているが、ぜひ実施して欲しい。また、療育のプログラムを学ぶ機会を作って、「障害のある子もない子も」という言葉が謳い文句にならないよう、本気で取り組んでももらいたいと感じた。

議長

ソライのスロープの設置はこれから話をする中で解決できると思うので、仲先生の意見を取り入れて欲しい。

皆川市長

こども時代は誰もが遊び、お子さんがいれば一緒に遊んだり、遊び場は、誰もが何の気なしに使っているものだが、遊び場の整備を課題と認識し、話し合いをしながら政策の方向付けができたということは画期的だと思う。遊びに本気という言葉が出たが、今まであまり関係ないと思っていた施設や部署も気付いていくのではないかな。

これからパブリックコメントやこどもの意見なども反映し、しっかりとまとめていきたい。熱心なご議論をいただいたことにお礼を申し上げる。

議長

サブタイトルや細かな文言整理などは委員長にお任せいただきたい。

以上で協議を終了する。

5 その他 事務局（子育て推進課主幹）

今年度の協議会は本日で終了する。来年度も引き続き３回程度の開催を予定しているので
よろしくお願いします。

6 閉 会 事務局（子育て推進課主幹）

—午後４時１３分終了—